

視察報告書

独立行政法人 国立文化財機構

東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、アジア太平洋無形文化遺産研究センター、以上7つの施設で構成されている。その内、東京国立博物館について視察したので、概要についてご報告いたします。

1. 有形文化財の保存と継承並びに、有形文化財を活用した歴史、伝統文化の国内外への発信
 - (1)有形文化財の収集、保管、次代への継承・・・収集、保存、修理
 - (2)展覧事業・・・展示公開、博物館来館者数H28年3, 663, 777人
 - (3)教育普及活動等
 - (4)有形文化財(美術工芸品)の収集、保管、展示事業、教育普及活動等に関する調査研究
 - (5)国内外の博物館活動への寄与

2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施
 - (1)新たな知見の開拓につながる基礎的、探究的な調査研究
 - (2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究
 - (3)文化遺産保護に関する国際協働
 - (4)文化財に関する情報資料の収集、整備及び調査研究の公開、活用
 - (5)地方公共団体を対象とする文化財に関する研修及び協力等

以上が独法の基本運営方針である。

1. 東京国立博物館について・・・総務部長、山下発氏より説明
 - ・明治5年（1872年）創立され日本で最も長い歴史をもつ
国宝55、重要文化財258を始めとし、11万7千件の文化財を収蔵
 - ・日本を中心に広くアジア諸地域にわたる文化財の収集、保存、修理、展示、調査研究、教育普及など事業、ふえる外国人も視野に金・土を夜9時まで開館。本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館で構成されている。多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に取り組む。
 - ・学習機会の提供・・・講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ、学習機会を提供する、その際テーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。
 - ・ボランティア活動の支援・・・教育活動及び来館者サービスの向上、さらに生涯学習活動に寄与するためのボランティア育成し活動を支援する。

・大学との連携事業等の実施・・・インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度
大学との連携事業を通じ、人材育成に寄与する
以上、国立博物館が目指す大きな目標である

保存と公開を大きな柱として、来場する国内外の多くの人達に、日本を感じ理解する手掛かりに、日本文化の玄関口、力が国の顔の役割をになう、その様な国立博物館を視察させて頂いたが、これから作る我が松本市立博物館にも、この様な理想(念)をかかげ、本市を訪れる多くの人々に松本を知っていただく、そして市内に多くある博物館の要として役割が果たせる博物館として建設していかねばと思つた次第であります。

H30年2月7日
誠の会 大久保 真一

松本市議会議長 上條 俊道 様